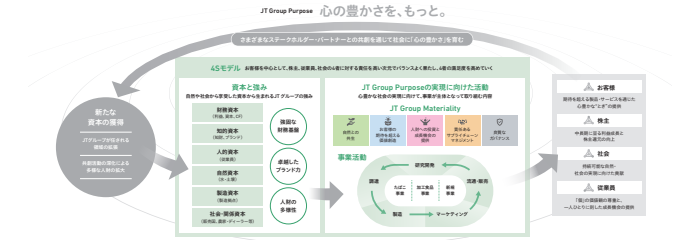


資本と事業活動

JTグループが保有する各資本は、バリューチェーンの各ステージにおいて活用、蓄積され、その蓄積された資本はグループ全体としての付加価値の向上にさらに活用されています。

中でも人的資本、財務資本はバリューチェーンのすべての活動を支え、ドライブする役割を担っており、その潤沢な蓄積が当社グループの成長の礎となっています。



資本の蓄積と活用

研究開発

- 各事業のR&D拠点において、お客様のニーズや嗜好に沿った新規技術・製品の開発を行い、知的資本を継続的に蓄積

調達

- 葉たばこ農家・ディーラー、さまざまなサプライヤーとの長年の関係構築(社会・関係資本)を通じ、調達基盤を最適化
- コスト競争力を保ちながら、高品質で安定的な原材料(自然資本)の調達を実現

製造

- お客様ニーズに応える高品質な製品を安定的に製造する生産体制(製造資本)をグローバルに確立
- 高度な品質基準を担保する検査体制を構築

マーケティング

- 保有する製品群の力強いブランドエクイティ(知的資本)を背景にお客様ニーズを満たす製品を提案
- たばこ事業において提供する製品のマーケティングに係る法令・ガイドラインの遵守を徹底

流通・販売

- 販売店との強固な関係性(社会・関係資本)を基に、営業施策を展開
- お客様ニーズや事業環境に応じた最適流通網を構築

RRPカテゴリにおける資本

JTグループが積極的に投資を行うRRP(Reduced-Risk Products)カテゴリにおいても、さまざまな資本を活用しています。

投資フェーズにあるカテゴリであることから新たな蓄積に取り組む資本が多い状況にあります。今後のさらなる成長に資する資本の循環プロセスが形作られてきています。

資本の蓄積に向けた取り組み

財務資本

- Combustiblesの収益を原資としたRRPへの戦略的投資:2026年～2028年で約8,000億円の投資計画(販促8割、R&D1割、CAPEX1割)

- シェア伸長と販売数量の増加を通じた利益貢献

知的資本

- グローバルで一体となったR&D体制のもとでの、基礎研究や応用研究、製品開発
- ブランド価値のコミュニケーション戦略の立案

- お客様の期待を超えるRRP開発、製品パイプラインの強化
- Ploomブランドエクイティの強化

人的資本

- RRPセールスに関するベストプラクティスや市場動向等のマーケット間の情報共有
- 電子デバイス開発等、専門的知識を有する人材の採用

- RRPセールス人材の育成強化
- 製品開発の迅速化・効率化

自然資本

- RRPデバイスに含まれる紛争鉱物に係るResponsible sourcingの実施
- 主にデバイスを対象とした回収・リサイクルプログラムの導入

- 当社の事業活動や製品が自然環境に与える影響の低減と改善

製造資本

- RRP展開マーケットの地理的拡大や需要動向を踏まえた生産体制の構築
- 生産体制の継続的な点検と最適化、および製造工程の改善

- お客様ニーズに応える高品質なRRPの安定的な製造と供給

社会・関係資本

- RRPの研究開発に係る外部パートナーとの協業
- RRPデバイス等のサプライヤーや物流企业、販売店との関係構築
- 各国規制を踏まえた外部機関との連携強化

- RRPの研究開発や調達・供給網の高度化
- 適切な規制対応